

Practice to connect with the city in International Art Exhibition : A Case of “Trolls in the Park 2021”

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水谷, 俊博 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1685

国際アート展における街とつながる実践 トロールの森 2021 を事例として

Practice to connect with the city in International Art Exhibition
: A Case of “Trolls in the Park 2021”

水谷 俊博*1
MIZUTANI Toshihiro*1

地域計画 まちづくり 自然環境
アート展 インスタレーション ワークショップ

1. はじめに

東京都立善福寺公園を主会場として年に1回開催される国際野外アート展、「トロールの森」(主催:「トロールの森」実行委員会、後援:東京都(東部公園緑地事務所)、杉並区、杉並区教育委員会、助成:東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京、杉並区文化事業助成事業、企業メセナ協議会)。2002年にスタートし、2021年は20回目の開催となる。

「トロールの森」は、都心部の施設内部(美術館等)等で開催される通常のアート展と違い、都立善福寺公園からJR西荻窪駅周辺までを中心とし、街中のフィールドに

展開されることが大きな特徴であり、善福寺公園で開催される屋外アート展示と並行して、野外劇や街とリンクした「野外×アート×まちなか」というアートイベントが様々なかたちで展開されている。

2. トロールの森 2021 概要

「トロールの森 2021」は善福寺公園の屋外展示に30作家の出展、屋外劇場の演目に17アーティストの出演、まちなかアートイベントとして20のイベント企画が開催された。開催会期は、2021年11月3日(水・祝)～11月23日(火・祝)。



■ 善福寺公園上池東岸サイドにおける作品展示風景

*1 工学部建築デザイン学科教授



■作品内部からの様子

「トロールの森 2021」においては、「武蔵野大学水谷俊博研究室」名義で出展し、『Still Breathing』という作品を、「野外×アート」部門において展示をおこなった。(出展に際しては、プロポーザル形式により、1 次書類審査(2021年4月2日提出締切)、2次のプレゼンテーション・面接審査(2021年5月16日)を経て、入選・出展の運びとなった)。「トロールの森」には2013年より出展を継続しており、2021年の本展示で8回目の出展となる。アート展「トロールの森」全体の2021年のテーマは“深く息をする、Breathe deeply”ということで、作品展示と併せて作品に寄り添うかたちのパフォーマンスを会期中におこなうことを企画した。

3. 野外展示作品概要

野外展示作品『Still Breathing』は、深く息をするという状態を木材と布を用いて表現したインスタレーションである。自然豊かな公園の中できれいな空気を感じながら深呼吸することで新しい発見を促す作品にした。

大中小3種類の木フレームを無造作に並べることで、フレームの中を歩きながらそれぞれの居場所を見つけ、それぞれが佇む場所で深呼吸ができる空間を創作した。



■協働による制作風景



■作品近景 (呼吸する膜をイメージした布)

フレームは厚さ30mmの集成材を使用しており、来場者に木の感覚や匂いを感じて欲しいという意図から、オイル塗装等は施さず、軽くヤスリをかけた素地状態のものを使用している。フレームの寸法は、大フレーム：200mm×900mm×H1,800mm、中フレーム：200mm×850mm×H1,600mm、小フレーム：200mm×1,400mm×H1,100mmのパターンで構成しており、佇む場所としてフレームの外側に200mm×400mm×H600mmのベンチを2ユニット制作した。

フレームとフレームを結ぶ布は、呼吸する膜(横隔膜)をデザインのイメージにしており、来場者には、布に吹く自然の風を視覚により感じながら、実際に深呼吸してもらう場を提供している。布の素材はオーガンジーを使用することによって、透明感を確保しながらも少し光沢感を出し、布の動きが、呼吸することによって空気が通り抜ける様子を創出している。

木フレームの上部に金具を数カ所取り付けており、会期中の前半と後半で布の結ぶ場所を変化させた。会期中に作品の表情に変化を持たせることにより、いつも一定ではなく日々変化が起こる体内の呼吸を表現している。



■作品細部の制作風景



■子供達が作品に触れ、フレームをくぐる様子

作品は善福寺公園上池の中央部入口付近に設置され、紅葉している公園の木々たちを見ながら深呼吸を促すことができた。池の手前に設置したため、多くの人の目に止まり、小さな子供達や見学者がフレームを潜って空間を楽しむ場をうみ出した。

また、作品展示と並行して、武蔵野大学3年生の「建築学演習」の活動一環（「建築で演じる、都市で踊るートロールの森に肖るー」）により、出展作品に対して会期中に新しい企画を立て、アート・パフォーマンスを实践するプロジェクトに挑戦した。参加学生各々が野外展示作品のテーマに則り、パフォーマンスを行った。

「風を受け止める」というコンセプトのパフォーマンスでは、木フレームに付けた布と同質の白い布を、園道を横断するように垂らし、カーテンを模したアーチを形成することで窓から流れ込む風をカーテンのように視覚的に表現した。

また、「この時代の願いを書く」というコンセプトのアート・ワークショップでは、「コロナ禍の忙しく過ぎ行く毎日の中で深く息を吸った時にやりたいこと」を短冊に書いてもらうという参加体験型のワークショップを展開。多数の来場者のメッセージが作品『Still Breathing』から派生していき、会場の賑わいを創出した。



■来場者に短冊に書いてもらうアート・ワークショップの様子



■作品と連動し来場者間をつなぐ、風船を用いたパフォーマンス



会期中不定期に開催されたこれらのアート・パフォーマンスは、それぞれのコンセプトを元に今回のトロールの森の一マである“深く息をする、-Breathe deeply-”を表現し、トロールの森全体をさらに盛り上げ、来場者と作品の関係性を更に複層的に繋げる役割を果たした。

4. おわりに

『トロールの森』は、アートという媒介を介して、公園から街全体を繋げるという特徴的な国際アート展である。研究の一貫として野外作品の展覧・まちなかアートイベントのパフォーマンスに出展参画することにより、建築や地域性にとどまらず、街全体を繋げる実践の一活



■トロールの森作品紹介キャプションパネル

■作品から張りだした大きな布の下で舞踏をするパフォーマンス動と位置付けられる。今後継続活動をおこなうことによりアート展とまちづくりの関係性を考察する資料の蓄積をおこなっていく。

謝辞：

本稿をまとめるにあたり工学部建築デザイン学科、田中佑朋（4年）作成の作品報告資料を基に執筆を行った。感謝の意を表します。

また、本作品成立の過程において、武蔵野大学文学部主催の作品展『令和文学女子推し本展』（2021年10月30日開催）の展示会場構成企画における実践から展開したことを付記しておきます。（別稿『建築要素を用いた参加型コミュニティ形成の試行』（『武蔵野大学建築研究所紀要』第3号）参照）



■トロールの森参加アーティスト集合写真